保護者の皆さまへ
KAGOSHIMA UNIVERSITY
鹿大だより
第13号
鹿児島大学公式マスコットキャラクター さっつん
◎編集・発行／国立大学法人 鹿児島大学広報センター
〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21番24号 TEL099-285-7035 FAX099-285-3854 E-mail: sbunsho@kuas.kagoshima-u.ac.jp

学生の果敢な挑戦を大学が支援
～応募5件を採択～

学生の果敢な挑戦を大学が支援する「進取の精神チャレンジプログラム」を平成25年度に初めて実施。選考の結果、「大学の活性化」、「地域・国際交流」を内容とする【公募部門】で2件、テーマ自由の【自由部門】で3件が採択されました。

【公募部門】

①地域住民と医療系学生の対話の場 ～Cafeきやんせ～
代表者：医学部2年 古市妙さん（人数：学生5人）

医療系の学生が、地域と医療が密接に繋がることを目指して「地域住民と医療系の学生が対話する場」を作りました。カフェのように気軽に立ち寄って、ゆっくり過ごせる場所です。2カ月に1回のペースでカフェ店舗を借りて、講演会などを実施。毎回1つのテーマを決め、講師の話を聞くほか、参加者みんなで話をして、一緒に考えを深めました。25年度は対話、健康、命、子育て、地域づくりをテーマに5回開催。メンバーは会の開催にあたり、約2カ月前から何度もミーティングを行い、会の終了後も振り返りのミーティングで課題をフィードバックし、アンケートを基に今後の活動をより良くする方法を考えました。回を重ねるごとに、少しずつ地域と医療との距離が近くなっているように感じ、「社会全体を変えることはできなくても、1人ひとりの理解や知識が深まり、確実にその輪が広がっていく」と実感できました。今後も「医療はみんなでつくるもの」という〝気づきの場〟を作っていきます。

②ぶちっと！
鹿児島の水辺の生き物たち
代表者：水産学部3年 喜種翔平さん（人数：学生8人、教職員2人）

県内の水辺に生息する生物を採取して低予算で常設展示し、持続可能な維持管理体制を作りました。これは、キャンパス内の美化に繋がること、生物に興味・関心を持ってもらうこと、レイアウトを楽しんでもらうことが目的です。学習交流プラザ入口（図書館2階）、水産学部4号館、附属小学校玄関の4カ所に水槽を設置しました。解説パネルも展示し、附属小学校には図鑑も置いて、子どもたちの疑問・質問に応えられるようにしました。今後は、メンバーの管理技術を向上させ、生物やパネルを追加し、後継者も育成する予定です。

【自由部門】

①つながる～手と手～
木玉プロジェクト2013
代表者：教育学部4年 中俣滉さん（人数：学生5人、教職員5人）

鹿児島県産のスギやヒノキの間伐材を丸く加工した「木玉」を木枠に入れたものが「木玉プール」です。子どもたちが中に入って遊ぶと、「木玉」の滑らかな感触や爽やかな香りなどを楽しめます。企画したのは教育学部技術専修の学生5人。東日本大震災による影響で、福島県の子どもたちが外で遊ぶ機会が少なくなっていることを知り、「室内でも楽しめる遊具を作って、少しでも元気になってもらえたら」との思いから製作を始めました。木玉を紙やすりで磨く仕上げの作業は附属中学校の生徒や保護者に協力してもらい、約600個が完成。昨年12月に福島大学附属幼稚園を訪問し、園児にクリスマスプレゼントとして手渡すことができました。多くの人の手を借りて、1つひとつを手作りし、手渡しすることができた「つながる」プロジェクトをきっかけに、今後は大学間の交流などができればと考えています。

木玉プール

②大野の開拓魂
棒踊りの継承
代表者：農学部2年 西瑠也さん（人数：学生9人）

垂水市大野地区の伝統芸能「棒踊り」を継承し、地域住民と一緒に豊年祭で奉納するとともに、踊りの映像を保存して今後につなげていきます。「棒踊り」は、一度途絶えましたが、1976年に復活。しかし、歌に合わせて木剣と棒を激しく交差させ、速いテンポで舞うのが特徴で、少子高齢の大野地区では再び伝承者が減少。そこで、「地区の住民ではないが、少しでも役に立ちたい」との思いから、学生たちが継承しました。踊りの際に履く「わらじ」作りにも挑戦。10月からは平日の夜に毎日、棒踊りの練習をしました。11月の豊年祭には、午前中の奉仕作業から参加。しめ縄の準備や掃除をした後、地域の人が歌う歌に合わせながら、棒踊りを奉納しました。また、鹿大祭でも披露し、大勢の観衆を魅了しました。学生たちは今回の挑戦で、地域住民から厚い信頼を得ることができ、大野の開拓魂も継承することができました。

豊年祭での棒踊りの様子

③世界を身近に感じたい！
【ミャンマーの扉を叩いてみよう！かご編みプロジェクト】
代表者：農学部3年 松本祐樹さん（人数：学生16人、教職員1人）

「ミャンマーの子どもたちに学校を建てよう！」と結成した「かごみん」のメンバーが新たに考えたプログラムです。学校建設は完了したものの、ミャンマーのカンカウン村には経済的に貧しく、学校に通えない子どもが多くいます。そこで、学生たちは、子を持つ母親や女性たちの収入を向上させ、子どもたちが学校に通えるようにしようと考えました。また、生活の中心である湖で大量発生しているホテイアオイという水草を使ってカゴを編み、湖を浄化するとともに、観光資源として活性化させようと考えました。街頭での募金活動、鹿大祭での現地の小物、コーヒー販売の収益をかご編み講習の費用としました。メンバーは、2月末に現地に赴き、村の収入向上事業として、村共同のミシン購入や、かご編みの技術研修のほか、マーケティングに関するワークショップや子どもたちへの環境啓蒙活動、かごをお店に置くためのプレゼンなどを行いました。

◎先生インタビュー　TEACHER'S INTERVIEW

自己免疫性辺縁系脳炎の病態解明を目指す

医学部・歯学部附属病院　脳・神経センター　講師　渡邊　修

鹿児島大学大学院医学研究科単位取得後退学。医学博士。2007年4月着任。

元々は研究者になろうと考えていましたが、大学4年の時に医師になることを勧めていた父が急逝しました。

今、主に行っている研究は、けいれんや記憶障害を引き起こす「自己免疫性辺縁系脳炎」や全身の筋肉がけいれんして動かなくなる「Isaacs（アイサックス）症候群」の病態解明です。自己免疫性辺縁系脳炎は診断が難しく、気づき が重要です。記憶障害の症状からアルツハイマー病などと診断される恐れもあります。今は神経内科だけでなく、精神科の一部の先生もこの病気を知り、全国から数百もの検体が送られてくるようになりました。気づいて検査をすれば診断できるので、自分の研究が全国的な診療のお役に立っているのでと思っています。最近では、抗LGI-1抗体という物質がAMPA型グルタミン酸受容体の機能を低下させて記憶障害を引き起こすという仕組みを明らかにしました。

講義は、「神経・運動」「神経診断学」などを担当しています。今の医学教育は昔に比べてはるかに優れていますが、必須項目が多く、毎日1限目から5限目までほとんど詰まっているので大変だと思います。講義と並列で実習・実技も行います。学生も優秀で、プレゼンテーション能力が既に身についているのは素晴らしいと思います。少し残念なのは、目の前の課題にとらわれすぎて、高い目標が持てていないことです。基本はもちろん大事ですが、レベルの高い研究を手伝ったり、外の世界を見たり、地域医療に触れることも大事だと思います。

食べ物で血管を健康に、病気を予防

農学部　講師　加治屋　勝子

静岡県立大学大学院生活健康科学研究科博士課程修了。博士（食品栄養科学）。2013年9月着任。

専門は、食品栄養科学、生体分子機能です。学部生の頃は栄養士を目指して資格を取得しましたが、卒業論文に取り組む中で研究の楽しさを知り大学院に進学、食べ物で病気を予防したくて食品栄養科学の道に進みました。

大学院修了後は予防医学を実践するために「病気のことをもっと知りたい！」と感じ、医学部で血管病のメカニズム解明を中心とした研究をしてきました。

そして、昨年9月に農学部に着任。再び焦点を食品に移して、自分が研究してきた循環器系の病気を対象に、天然物から病気の予防効果が期待できそうな成分を探しています。病気になってしまったら薬などの治療が必要ですが、境界域の人には毎日の食生活でできる予防法を提案したいと思っています。

鹿大は、教員同士も教員と学生の距離も近くて、コミュニケーションを取りやすい良い環境です。も、授業中に手を上げて質問する学生は少ないですね。授業以外の場で質問してくれるのですが、とても大事な質問だったり、私にとっても今後の教育に活かせたりするので照れずに積極的に質問して欲しいですね。

それから、学生の皆さんには家と大学の往復だけではなくいろんな経験をしてもらいたいです。私も病院で外来栄養指導をした時に病気で苦しむ患者さんの姿を見た経験が、「病気になった後に治療するのではなく、病気を予防したい」という今の研究へのモチベーションに繋がっているのです。

何が将来自分に繋がるか分からないですからね。

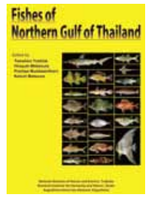
鹿大の主な出来事
平成25年10月～26年3月
EVENTS IN KAGOSHIMA UNIVERSITY

●連合農学研究科の学生が世界初となる「タイ湾魚類図鑑」を出版

連合農学研究科の学生で、総合研究博物館の本村浩之教授の研究室で魚類の研究を行っている吉田朋弘さんが、タイ湾北部海域の魚類フィールド図鑑を第1編者として編集しました。

吉田さんは、独立行政法人日本学術振興会の若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラムによってタイに4カ月間派遣され、研究活動を行い、その成果の一部を執筆。鹿児島大学総合研究博物館、総合地球環境学研究所、国立科学博物館の共同印刷物として出版されました。執筆陣は、吉田さんと本村教授を含む日本、タイ、マレーシア、オーストラリアの研究者から構成されています。

本書は世界初となるタイ湾魚類図鑑で、タイ湾初記録の4種を含むタイ湾北部海域に生息する372種の詳細な英語解説と、491枚のカラー写真を掲載しています。



本書は本村教授のHPなどからダウンロードできます。

●共通教育における成績優秀者13人を表彰

教育センターでは、10月11日、「平成25年度教育センター長賞表彰式」を開催しました。この表彰は、共通教育における成績優秀者として、共通教育科目等の通算グレート・ポイント・アベレージ（GPA）の値が3・5以上あった学生で、各学部（歯学部・共同獣医学部を除く）の上位2人を表彰するものです。今回は13人が受賞しました。

教育センターでは、平成19年度から学生に学習効果について自己点検させるとともに、学習達成度を測るため、GPA制度を導入しており、今後も成績優秀者の表彰と、成績不振者に対する指導・助言などを行っていく予定です。

飯干明教育センター長（中央）と受賞者で記念撮影

●卒業生による就職支援セミナー「鹿大卒大手企業勤務OB・OGが語る～内定を掴むために～」を開催

就職支援センターは、鹿児島大学の卒業生による就職支援セミナーを10月18日に開催しました。講師を務めたのは、木村健介さん（三井物産株式会社勤務）、中尾文哉さん（豊田通商株式会社勤務）、中村恵理子さん（株式会社日本政策金融公庫勤務）、中村拓郎さん（サントリー酒類株式会社勤務）の4人。このセミナーは、学生と同じ鹿大出身で、年齢の近い先輩が実体験を通じて語ってくれるのが魅力です。自分にも出来る、という実感と勇気を得ること、将来の目標を明確化させるきっかけになること、また、鹿大出身を強みにするための就活方法を学ぶことや、OB・OGとのつながりを持ち、今後に活かすことなどを目的に開催されています。

講師の中尾さんとの座談会

●市長とふれあいトーク（鹿児島大学）を開催

12月25日、法文学部の学生約30人と森博幸鹿児島市長が意見交換を行いました。「市長とふれあいトーク」は、森市長が市民からの意見などを市政推進の参考にするため各地で開催しているもの。本学と鹿児島市は平成19年に包括連携協定を締結しており、法文学部はこの協定に基づいて26年度から法文総合科目として「まちづくり論」を開講する予定であることから、今回の開催につながりました。

学生からは、市立病院移転後の渋滞対策や路地利用、雇用拡大や経済発展を踏まえた県外資本と地場産業のバランス、防災対策、再生可能エネルギーなどについて質問が出され、森市長は具体例を交えながら回答していました。

●平成25年度 学業成績優秀学生奨学金授与式を開催

1月22日、学業成績優秀学生奨学金授与式を開催しました。

学業成績優秀学生奨学金制度は、学生の勉学意欲の向上及び優秀な人材の輩出などを図ることを目的に創設したものです。全学年を対象に、在籍中の成績評価及び面接等により各学部から選考、推薦された85人に、1人当たり年額15万円の奨学金が給付されます。

●鹿児島大学公式マスコットキャラクター「さっつん」誕生

「さっつん」は、大学院理工学研究科博士前期課程1年の今村仁美さんによる作品で、学内公募で最優秀賞を受賞しました。コンセプトは、「鹿児島市発祥である氷白熊からヒントを得て、大きなしろくまのキャラクターに薩摩の偉人たちの歴史を思わせる紋付き袴を着せて、頭に桜島を乗せました。大学から見える雄大な桜島は、見る度に〝私は自分の意志でこの大学へ来たんだ〟ということを思い出させてくれ、鹿児島大学に入学する学生が、桜島の噴火のように活発な学生生活を送り、薩摩の偉人たちのような素晴らしい才能を開花させることを願いました」とのことです。

3月10日には前田芳實学長から表彰が行われました。

●平成26年度就職支援プログラム（予定）

◎1～2年生対象		
4月～7月	●	共通教育科目前期「キャリアデザイン」開講
9月16～19日	●	共通教育科目「実践キャリアデザイン」開講（夏期集中授業・4日間）
9月末～翌年1月	●	共通教育科目後期「キャリアデザイン」開講
2月中旬	●	2年生対象進路ガイダンス
◎3年生（修士1年生）対象		
5月～翌年4月	●	公務員採用試験対策講座開設（大学生協）
6月上旬	●	学生向け就職小冊子「就職支援ガイドブック」発行
6月18日	●	第1回就職ガイダンス「どうなる? 2016卒の就職戦線」
7月9日	●	第2回就職ガイダンス「人事担当者が語る～インターンシップの意味」
7月23日	●	就職支援講座Ⅰ「就活マナー実践」
9月24～25日	●	業界別研究講座①～④
10月15日	●	第3回就職ガイダンス「効果的な業界（企業）研究の方法」
11月19日	●	第4回就職ガイダンス「鹿児島県内企業人事担当者によるパネルディスカッション」
12月～翌年6月	●	教員採用試験対策講座開設（大学生協）
12月3日	●	第5回就職ガイダンス「人事担当者による理系対象のパネルディスカッション」
12月17日	●	第6回就職ガイダンス「エントリーシート対策」
1月7日	●	第7回就職ガイダンス「公務員希望者向けガイダンス」
1月21日	●	第8回就職ガイダンス「面接対策&就活ストレス対処法」
2月上旬	●	企業向け小冊子「求人のための大学紹介」発行
2月10日	●	第9回就職ガイダンス「グループディスカッション対策」
2月中旬～下旬	●	就職支援講座Ⅱ「模擬面接&グループディスカッション実践」
3月上旬	●	学内合同企業セミナー（ブース形式）
3月	●	福岡開催の合同企業セミナー参加バスツアー
3月中旬	●	学内個別企業セミナーフェアー（講義形式）
◎4年生（修士2年生）対象		
4月～翌年3月	●	学内個別企業説明会（随時）
4月16日	●	公務員採用試験説明会（国、鹿児島県、鹿児島市等）
5月中旬	●	県外公立学校教員採用試験説明会
5月21日	●	就活応援講座Ⅰ「就活見直し講座」
5月下旬	●	鹿児島県公立学校教員採用試験説明会
6月25日	●	就活応援講座Ⅱ「公務員・教員受験者向け集団討論対策」
8月上旬	●	九州地区への就職希望者向け学内合同企業説明会（ブース形式）
2月中旬	●	個別進路相談会

INFORMATION

◎学生支援寄附金のご案内

鹿児島大学は、地域と国際社会で活躍しうる人材の育成を重要な使命としています。現在、大学独自の学業成績優秀学生奨学金などの制度を設け学生を支援しています が、更なる支援の充実が必要であると認識しております。そのため、本学では広く学内外の方々から学生の生活・学習・社会貢献・研究活動・留学等への支援を目的とした寄附金を募っています。つきましては、何とぞこの趣旨にご賛同を頂き、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

なお、事業内容につきましては、学生生活課（TEL 099-285-7331）までお問い合わせいただくか、鹿児島大学ホームページ（http://www.kagoshima-u.ac.jp）の左側下部「窓口案内」をクリックしていただき「学生支援寄附金のお願い」をご参照ください。

Clubs　サークル紹介

放送研究会
学生らしい自由な発想を映像や音声を使って作品化

創部は1967年。現在の部員は男子15人、女子26人の計41人で、普段はアナウンス練習や制作トレーニングをしています。制作班・アナウンス班が合同で練習をすることもあります。また、学内の学習交流プラザで放映する映像制作のために、各サークルへの取材活動も行っています。他には、サークル内でいくつかのグループを作って映像番組を制作したり、大会用の番組を作るなどの活動をしています。目標は、NHK杯で受賞することです。毎年夏休みには合宿を行って部員の仲を深め、より良い作品づくりに役立てています。

学外では、鹿児島市伊敷のコミュニティFM局「FMぎんが」と交流があり、部員が交替で朝の2時間情報番組や、“学生”をテーマとした番組にパーソナリティとして出演させてもらっています。

部員同士はとても仲が良く、やってみたいと思ったことを口にすると、自然と人が集まってきます。アナウンスや映像・音声制作に興味のある人はぜひ、部室に遊びに来てください。作りたいものを自由に制作できるサークルです。

昨年の夏合宿時に、福岡のスペースワールド前で

サッカー部
サッカー好きが集まって、楽しく厳しく練習中!

男子25人、女子5人のサッカーがとても好きな人たちが集まり、週5日間、大学のグラウンドで楽しく厳しく練習しています。

学外での活動としては、九州学生リーグや鹿児島県リーグなどに参加しています。2012年は県リーグ1位、九州学生リーグ2部2位になり、九州学生リーグ1部昇格という成績を収めました。試合に参加することで他の大学との交流が深まるとともに、お互いのレベルアップにもつながっています。今年の目標は、降格してしまった九州学生リーグ2部で優勝して、再び九州学生リーグ1部昇格することです。そのために、日々練習に励んでいます。

もちろん、練習や試合だけでなく、新入生歓迎会・春夏の合宿・忘年会・卒業生追いコンなどの恒例イベントもみんなで楽しんでいます。部員の仲をより深めるために、先輩後輩に関わらず、食事や飲み会にも度々出掛けています。

サッカー部はまだまだ部員を募集しています。

サッカーが好きで、みんなで楽しく汗を流したいという方はぜひ一度、グラウンドに見に来てください。

昨年、九州学生リーグに臨む際は新聞社の取材を受けた

学部ニュース ～平成25年度後期～

各学部で行われた行事等を紹介します。

◎法文学部ニュース

●12月18日、野村証券（株）鹿児島支店の人事担当者を講師にお招きし、学部3年生を対象とした第2回就職ガイダンス（模擬面接）を実施しました。代表学生5人が本番さながらの面接を受け、1人終わるごとに講師から採用担当者視点による指摘やアドバイスをいただきました。聴講した学生130人は熱心に聞き入りメモを取っていました。

●1月15日、内定を獲得した4年生6人による就職活動体験報告会（第3回就職ガイダンス）を実施しました。これから就職活動を本格化させる3年生に向け、就職活動を行ううえでの心構えや自己分析・企業分析の進め方、面接でよく問われる内容や回答のポイント等が具体的に話され、参加した学生120人は、実体験に基づいた貴重なアドバイスに真剣に聞き入っていました。

●徐々に地域に定着しつつあるエコスイーツ活動が、さらに規模を拡大して展開し、鹿児島エリアに加え、指宿エリアでも取り組みがなされました。全国環境コンテストeco japan cupでは、学生もプレゼンを担当し、部門審査第1位の「エコまちづくり大賞」を受賞。前年度の環境大臣賞金賞（低炭素杯2013）受賞に続くもので、全国で知られる活動となってきました。

eco japan cupでのプレゼンテーションの様子

模擬面接の様子

◎教育学部ニュース

●11月26日から3月14日にかけて、教職を目指す学部生、大学院生を対象に教員採用試験対策のための特別講座「教員採用試験対策プログラム」全9回が実施されました。講師は学部教員が担当し、延べ380人程の学生が受講しました。次年度受験を控えた学部3年生、研究科1年生のみならず、学部1、2年生も積極的に受講していました。

●12月10日、学生FD委員が中心となって学部大学院合同FDシンポジウムを開催しました。学部生、大学院生、教員合わせて約40人が参加しました。教員2人からの基調報告の後、「教育実習の経験を活かした大学の授業とは」「卒業論文と修士論文の意義とは」「学生と教員のコミュニケーションを増やすには」の3つのテーマについて、教員と学生で構成したグループで熱心な討論が行われ、全体発表でも活発な意見交換が行われました。

●12月20日～24日、韓国国立江陵原州大学校の学生15人、教員1人からなる研修団が来日し、国際理解教育専修の学生がホームステイを受け入れ、学生交流会や鹿児島市内見学等を企画・実施し、交流を深めました。

江陵原州大学校の研修団との交流

教員採用試験対策プログラム

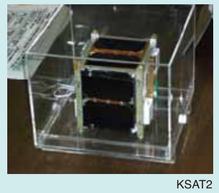
◎理学部ニュース

●10月28日、3年生と大学院博士前期課程1年生を対象に第2回理学部就職ガイダンスを実施し、61人が参加しました。株式会社リクルートの松田愛子氏を講師に招き、「エントリーシート対策講座」が行われました。また、内定を得た学生2人から就活体験談の発表も行われました。

●11月14日～18日、理学部祭が開催され、4学科の学生による展示が行われ、多くの市民が訪れました。

●1月15日に小型人工衛星KSAT2を公開し、多くの報道陣や一般市民が訪れました。同月21日にはJAXAへの引き渡しが完了し、2月28日にH-IIAロケットで打ち上げられ、同日交信にも成功し、KSAT2は「ハヤトII」と名付けられました。86日間の運用中に「電波での大気水蒸気観測」や「搭載カメラでの雲画像の撮影」等のミッションを行う予定です。

●文部科学省主催第3回サイエンス・インカレ研究発表会に、学部2、3年生による4グループ（計6人）の研究成果が選抜されました。これら4件の研究成果は、3月1日・2日に幕張メッセ国際会議場で発表されました。


KSAT2

理学部祭

◎医学部ニュース

●11月12日、平成25年度鹿児島大学解剖体慰霊祭が桜ヶ丘体育館において、ご遺族をはじめ教職員・学生など約500人の参列のもと無宗教で厳かに執り行われました。式では、この一年間に解剖を受けられた系統解剖67体、病理解剖29体、法医解剖83体および開学以来の総数9863体の御霊に黙祷を捧げ、医学部生を代表して医学科3年生の大川大輔さんが弔辞を述べました。

●部局間学術交流協定を締結している韓国・中央大学校赤十字看護大学との交流事業の一環として、1月20日から27日にYoonkyoung Lee教授と3人の学部生が本学を訪れ、大学病院での臨床実習、保健・福祉・医療施設の見学、茶道体験などの学生交流プログラムを実施しました。国や言葉が違っても学生同士はすぐに打ち解け、互いの文化や看護の現状、将来のビジョン、テレビドラマに至るまで、幅広く多様な話題について交流を深めました。Farewell Party、平日の夕食・観光などを学生自らが積極的に企画・実行し、本学学生にとっても有益な国際交流と学びの機会となりました。

●2月6日、医師国家試験を受験する6年生の壮行会が行われ、佐野輝学部長から激励の言葉があり、続いて6年生の樋渡啓生さんが必勝宣言を行い、上村裕一教授が炭酸飲料で乾杯の音頭を取り後輩とともに合格を祈願しました。

学生交流プログラムを実施

解剖体慰霊祭

◎歯学部ニュース

●11月12日、桜ヶ丘体育館において平成25年度鹿児島大学解剖体慰霊祭が開催され、解剖を受けられた御霊に黙祷を捧げた後、学生を代表して歯学部2年生の奥陽一郎さんが弔辞を述べました。この後、祭主、喪主の献花に続き、参列した来賓の方々、ご遺族、教職員、学生らによる献花が行われ、医学・歯学のために献体された御霊に感謝申し上げると共に、ご冥福をお祈りしました。

●11月23日、24日の二日間にわたって桜ヶ丘祭が開催されました。歯学・医学・保健学科生が自ら企画した催し物や体験もの、医療系ならではの個性あふれる企画ものが用意されました。また、恒例となっているゲストライブや軽音楽部による演奏、模擬店、フリーマーケットも立ち並び、多くの来場者で賑わいました。

●島田学部長と杉原教授が、モンゴル健康大学歯学部、生命医科学部の二部局との学術交流協定締結のためモンゴルの首都ウランバートルを訪問し、1月13日に大学本部で、学長、国際交流担当副学長ほか数十人の関係者列席のもと調印締結式が執り行われました。モンゴル健康大学歯学部・生命医科学部は本学との交流に大きな期待を持っています。今後の本学部の国際化、グローバル化のためにも両部局間交流を推進していく予定です。

桜ヶ丘祭

解剖体慰霊祭 学生代表弔辞

◎農学部ニュース

●女子中高生を対象とした鹿大科学体験塾「生命誕生の神秘」と「発酵食品がもつ隠れたパワー～ガンを予防する麹の成分～」を8月24日に実施しました。女子大学院生が実験指導を担当し、顕微鏡による家畜卵子・精子や麹菌等の観察を実体験しました。

●10月23日～25日、農林水産省主催の「アグリビジネス創出フェア2013」にポスターや焼酎・サツマイモの新品種「こなみずき」を使ったパンなどを展示し、来場者に教育・研究により創出された技術や成果物の紹介を行いました。

●10月28日～30日、入来牧場牛肉フェアを実施し、中央食堂にて附属農場入来牧場産の黒毛和牛を使ったカレーとグラタンを販売しました。第2回目となる当フェアは、今年は生協学生委員会の学生10人が主体となり、出荷牛の手入れ・メニュー考案・広報・食育活動を行い、昨年よりも更に好評でした。

●12月11日、農学部で鹿児島県・九州地区の農林食品関係企業50社による合同企業説明会を実施し、学部生及び大学院生の計115人が参加しました。

●12月26日、鹿児島市立玉龍中学・高校1年生約120人を農学部に迎え、学部の概要説明や研究室の紹介が行われました。

企業説明会「さばいやんせ鹿児島・九州ー魅力ある農林食品関係企業」

女子中高生のための鹿大科学体験塾

◎水産学部ニュース

●9月11～14日、かごしま丸がフィリピン大学の学生と共同利用乗船実習を実施しました。この際、公海魚類資源実習で乗船中の本学部3年生18人と混乗し、一緒に操業作業を行うとともに、ルームメートとして過ごし、国際交流を深めました。

●11月16日、初めての下荒田水産キャンパス祭を開催しました。同窓会である魚水会のホームカミングデー「もどいっきゃんせテー」も同時開催し、同窓生諸氏と現役学生、地域住民の方々、子供たちが一緒になって一日を楽しく過ごしました。

●水産学部では、元気で好奇心旺盛な水産学部学生を象徴するキャラクターの名前を募集していましたが公募と投票の結果、女子が「なぎさ」、男子が「うしお」に決まりました。これからはこの2人が水産学部の広報で活躍します。

●1月25日、騎射場の飲食店街と水産学部生がコラボし、地元の水産物である「養殖ぶり」をテーマにした地域活性化イベント「騎射場ぶり祭」が開催されました。1000人を超える沢山の参加者でにぎわいました。水産学部生の元気によって、養殖業者も地元飲食店街も大いに盛り上がっています。

「騎射場ぶり祭」開催宣言をする学部長

水産学部キャラクター「うしお」と「なぎさ」

◎共同獣医学部ニュース

●農学部獣医学科在籍の5、6年生を対象に、8月17日～9月1日、米国ジョージア大学において臨床実習を行いました。実習終了後には、キャンパスツアーや交流会が企画され、現地教員や学生との国際交流が行われました。

●9月2日～4日、山口大学共同獣医学部1年生が来校して、両大学の1年生全員が合同で「獣医学概論B」を受講しました。これからの6年間で何を学ぶのか、何を身につけるべきなのか、そして獣医師としての役割とは何かを修得しました。なお、8月28日～30日は本学の1年生が山口大学で「獣医学概論A」を受講しました。

●10月26日、附属動物病院の動物慰霊碑前において、毎年実施されている動物慰霊祭を行い、一般市民、教職員、学生など約600人の方が参列されました。また、「犬・猫の食事管理」等の特別講演も行われました。

●農学部と共同で「心のケア講演会」を2月7日に実施し、教職員、学生が参加しました。講演は、鹿児島大学保健管理センター川池准教授が講師を務め、「自分を感じる、自分に気付く心理学」と題して約1時間にわたって行われました。

動物慰霊祭

獣医学概論（1年次・夏季集中）を実施

◎工学部ニュース

●10月23日、稲盛会館において平成25年度工学部稲盛学生賞及び平成25年度前期学部長賞の授与式を行いました。授与式では、福井学部長から稲盛名誉会長の功績と賞の概要が紹介された後、稲盛名誉会長からの祝辞が披露されました。続いて稲盛学生賞受賞者14人に賞状及び副賞が授与され、受賞者を代表して海洋土木工学科4年の中川智文さんが「今回の受賞は自分一人の力ではなく、多くの皆様の支えがあったからこそいただけたものです。支えてくださった皆様に感謝するとともに、この賞の名に恥じないよう、今後更なる努力を惜しまず、全力を尽くし飛躍していきたい」と答礼のスピーチを行いました。引き続き、平成25年度前期に条件を満たした学部長賞受賞者50人のうちこの日出席した26人に、学部長から賞状及び副賞が授与された後、大塚教務委員長からお祝いの言葉が贈られました。

●11月23日、教育学部第2体育館において工学部体育祭を開催しました。開催種目は昨年度と同様のバスケットボールでしたが、150人を超える参加者があり、会場は大いに盛り上がりました。体育祭は、例年大学祭翌週の土曜日に開催しており、学科の枠を超えて交流を深める良い機会となっています。

工学部体育祭

工学部稲盛学生賞受賞者記念撮影

●平成25年度学長表彰授与者

被表彰者	表彰理由
SCPエコビジネス部会 学生メンバー	低炭素杯2013 環境大臣賞・金賞（ソーシャルビジネス部門）（H25.2.17）
帖地　環 （法文学部人文学科3年）	JFN学生ラジオCMコンテスト2013　優秀賞（H25.7.18）
宮脇　悠 （工学部情報生体システム工学科4年）	2013東京国際スマートフォンアプリアワード 学生部門特別賞（H25.4.17）
精松 賢一 （理工学研究科博士前期課程1年）	第3回先端磁性材料と応用に関するシンポジウムISAMMA Best Poster Award（H25.7.25）
田畑 勝幸 （理工学研究科博士前期課程2年）	地盤工学会九州支部　優良学生賞（H25.4.23）
宮崎 誠生 （理工学研究科博士後期課程3年）	第86回日本生化学会大会　鈴木浩一メモリアル賞（H25.9.12）
神野 真幸 （医歯学総合研究科博士課程3年）	Cancer science（日本癌学会機関誌、英文学術雑誌）発表 102(3)、P540-548 2011年
楠山 譲二 （医歯学総合研究科博士課程4年）	平成24年度先端歯学国際研究ネットワーク 先端歯学スクール　最優秀賞（H24.9.21） 第11回日本超音波治療研究会 Young Investigator Award 最優秀演題（H24.11.17）
SCPエコビジネス部会 学生メンバー	eco japan cup エコまちづくり大賞・東急グループ賞（H26.2.14）
濱田 夏帆 （法文学部人文学科4年）	若者を考えるつどい2013　厚生労働大臣賞（H25.9.21）
大島　仁 （工学部情報生体システム工学科4年）	第13回デュアスロン選手権 日本選手権第6位・U23日本選手権第2位（H25.11.10）
石丸 善貴 （農学部生物資源化学科4年）	第6回日本暖地畜産学会鹿児島大会 日本暖地畜産学会優秀発表賞（H25.10.26）
吉村　渉 （理工学研究科博士前期課程2年）	電子情報通信学会デザインガイア2013 デザインガイア・ポスター賞（H25.11.28）
坂井 良輔 （理工学研究科博士前期課程2年）	第32回日本自然災害学会学術講演会 平成25年度学術発表優秀賞（H25.9.25）
山口 智嗣 （理工学研究科博士前期課程2年）	グラフィカルシステム開発コンテスト2013 学生部門　優秀賞（H25.11.1）
木佐貫　恵 （理工学研究科博士前期課程2年）	情報処理学会第95回数理モデル化と問題解決研究会 ベストプレゼンテーション賞（H25.10.17）
石井 拓洋 （理工学研究科博士前期課程1年）	日本化学会低次元系光機能材料研究会第2回サマーセミナー 優秀発表賞（H25.9.10）
星野 裕志 （理工学研究科博士前期課程2年）	2013 九州・西部・釜山・慶南 高分子（第16回）繊維（第14回）合同シンポジウム Best Presentation Award（H25.11.8-10）
平野 裕貴 （理工学研究科博士前期課程2年）	化学工学会九州支部学生賞審査会 Best Presentation賞（H25.11.8）
山本　誠 （理工学研究科博士後期課程2年）	土木学会平成25年度全国大会第68回年次学術講演会 優秀講演者（H25.11.11）
湯地　輝 （理工学研究科博士後期課程3年）	第35回コンクリート工学年次論文講演会 論文奨励賞（H25.7.11）
内　奈保子 （理工学研究科博士後期課程1年）	The 18th International Congress on Nitrogen Fixation Young Scientist Award（H25.10.14-18）
新地 浩之 （理工学研究科博士後期課程2年）	Japan-Taiwan Bilateral Workshop on Nano-Science （JTBW）2013　Poster Presentation Awards（H25.10.2-5）
西　和隆 （農学研究科修士課程2年）	第6回日本暖地畜産学会鹿児島大会 日本暖地畜産学会優秀発表賞（H25.10.26）
津末 成太和 （農学研究科修士課程2年）	日本家禽学会2013年度春季大会 日本家禽学会優秀発表賞（H25.3.29）
大山 健太郎 （医歯学総合研究科博士課程1年）	第58回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会 優秀口演発表賞（H25.10.13）
前田 千晴 （医歯学総合研究科博士課程4年）	日本麻酔科学学会学術集会　優秀演題賞（H25.5.23-25） 欧州麻酔科学会　優秀アブストラクト賞（H25.6.1-4）
向井 裕美 （連合農学研究科博士課程3年）	第4回（平成25年度）日本学術振興会　育志賞（H26.3.17）

●鹿児島大学稲盛賞

・法文学部／濱田 かおり、竹下 友章　・教育学部／中俣 滉　・理学部／内野 雄太、下大園 愛香
・医学部／水間 英美子、下津 舞美　・歯学部／渕田 麻佑美　・工学部／竹添 凌、中川 智文
・農学部／縄田 勇介、川副 千晶　・水産学部／西村 祐星、牧野 ひかり　・教育学研究科／蛯原 正貴

●鹿児島大学工業倶楽部賞

・農学研究科（修士課程）／朝園 文香、津末 成太和

●進取の精神学生表彰

優秀賞／Lily Girls（ファッションショーを通じて、地域の活性化を図る）　準優秀賞／うふっちゅな～れ（離島における地域活性化）、たいよう（小児がん経験者のサポート）、大原優美子（動物愛護活動）

◎平成26年度学事日程

●4月7日　入学式
●4月11日～7月31日　前期授業
●4月9日～25日　定期健康診断
●8月4日～8日　前期末試験
●8月9日～9月25日　夏季休業
●9月3日　成績発表
●9月10日～12日　後期履修申請期間
●9月26日～2月2日　後期授業
●11月13日～17日（予定）　大学祭
●12月23日～1月4日　冬季休業
●2月3日～9日　後期末試験
●2月26日　成績発表
●3月17日～19日　27年度前期履修申請受付期間
●3月25日　卒業式

KAGOSHIMA UNIVERSITY ANNUAL SCHEDULE 2014-15《共通教育の例》